

経営課題1
魅力あふれるまちづくり

現状
区制がスタートした1974年(昭和49年)と2014年(平成26年)の人口を比較すると、市内全域で95.6%に人口が減少しているが、鶴見区は123.7%と人口が増加(西区の178.6%、北区の136.0%、天王寺区の123.8%に次いで、増加率は市内で4番目)し、年少人口の割合が市内24区の中で最も高い。
また鶴見区は、毎年多数の参加者や来場者がある「区民まつり」をはじめ、鶴見緑地の清掃ボランティア活動である「クリーングリーン鶴見緑地」、区内小学校での「ホタルの夕べ」の開催など、区内各地域の連携や各地域での活動が活発に行われている。
このような区の特性を活かし、鶴見区役所では、区民の方々から世代を問わず「住んでよかった、住みつづけたい」、また区外の人から「鶴見区に住みたい」と言われるよう、市の関係部局だけでなく、区内の各地域や各種団体、小中高校、イベント企画運営の地域ボランティア等とも連携し、区民ニーズの高い音楽系イベントや子育て世帯対象イベントをはじめとした多様なイベントを開催し、また区内に散在する名所旧跡にもスポットを当てた事業を実施するなど、さまざまな角度から区の魅力を発掘創造して発信していく取り組みを行っている。

課題
・世代を超えて参加しやすいイベントや、ボランティア活動を通したつながりを持つことで、区に深い愛着をもつことができる取り組みを行う必要がある。
・イベント開催に際して、一過性でなく継続的に取り組むことで認知度を高め、また一方で、マンネリ化にならないように内容を精査整理していく必要がある。
・鶴見区の魅力をより高めるため、鶴見区のイメージでもある「花と緑のまち」づくりや環境に関する施策をさらに推進していく必要がある。
・イベント、事業に関する情報を区の広報やホームページ、地域の回覧などのさまざまな広報媒体を活用して広く発信し、区内外に向けて鶴見区の魅力を広くPRできるような取り組みをより推進していく必要がある。

27年度の取組
【地域資源を活用した魅力再発見の取組み】 幅広い世代が参加しやすく、区の魅力を感じることができる取り組みを進める。 《具体的取組》 (歴史、まちの魅力発見) ・まちあるき実施　3回 ・区の歴史に関する冊子発行　1回 ・区役所庁舎を活用した音楽コンサート実施　6回 ・つるみブランドフェスティバルの開催 ・楽園会議イベントの開催 ・農事体験プロジェクトの開催 ・鶴見緑地ポップカルチャー講習会の開催 (賑わい向上) ・鶴見緑地会場で光のイベント実施　1回 ・鶴見緑地国際庭園を会場とした国際交流の取組み　1回 (情報発信) ・鶴見緑地情報サイトによる情報発信　随時 【「環境」や「花と緑」をキーワードにした取組みの推進】 区内で環境活動を展開している人たちや関係局と連携しながら、環境意識を高めるための取組みや学習会等を実施する。 《具体的取組》 ・環境フェスタの開催　1回 ・環境学習会の開催　3回 ・地域と連携した低炭素化の推進　1,200世帯(環境局実施事業) ・種から育てる地域の花づくりやまちなかの花飾りなど活動実施にかかる支援(12地域) ・「みどり」を活用した区役所庁舎周りの花かざり ・鶴見緑地ホタルの幼虫放流 ・風車の丘チューリップ球根配布



28年度取組の方向性
・区民が世代を問わず鶴見区の歴史やまちの魅力を感じ、愛着を深められる取り組みを引き続き実施する。 (考えられる取組み：『発見!!つる魅力』冊子増刷、『発見!!つる魅力』プロモーション映像の制作、撮影体験イベント(仮)『鶴見緑地～写真彩～』　など) ・より魅力的で来場者や参加者の満足度が高いイベントを実施することで、賑わいを創出し、地域の活性化を促進しながら区外にも鶴見区の魅力を広める取り組みを行う。 (考えられる取組み：(仮)スプリングフェスティバル、光の花栈敷、楽園会議企画イベント、ワールドフェスタ、農事体験プロジェクト、鶴見緑地ポップカルチャー講習会　など) ・鶴見区の強みでもある花と緑のまちづくりへの活動参加者の裾野を広げていくとともに、環境に関する活発な区民活動を支援していく。 (考えられる取組み：種から育てる地域の花づくり活動事業の複数拠点化、クリーングリーン鶴見緑地活動の支援、鶴見緑地ホタルの幼虫放流、風車の丘チューリップ球根配布　など) ・区役所等の行政機関や地域などが有するさまざまな広報媒体を活用して、区の魅力PRに取り組む。 (考えられる取組み：鶴見緑地情報サイトによる情報発信、区広報紙、区ホームページ、区フェイスブック、つるみつ子だよりの小学校配布と区内61か所の広報板への貼付、各区役所及び区内大規模商業施設や駅へのチラシ配布、地下鉄構内・車両のアナウンスなど)